

NO! リニア

No. 8

2009年10月27日

JR東海労働組合

リニア反対プロジェクト

「のぞみ料金+1,000円」「東京～大阪15,000円」?? この料金で採算は取れるのか!?

会社は、「リニア開業後は首都圏～中京圏間の運賃料金体系の見直しや、航空旅客の転換などにより、旅客は開業初年度で開業前の5%増、以後10年間は徐々に伸びて10%まで増えその後は一定」と見解を示しています。そして、料金体系は、「現行新幹線より1,000円程度高くなる見込み」「東京～大阪間15,000円」と経営陣は言い放っています。需要を見込んでの料金設定と考えられます。果たして、その需要見込みとそれだけの料金で経営が成り立つのでしょうか？

この間発行した本紙で指摘したように、会社が言う「旅客増は見込める」という脳天気な言い分は理解できません。経済の停滞、人口減少等で輸送量の増加は期待できません。会社が示した料金体系は、どのような計算で出されたのでしょうか？全く理解できません。

コンコルド、アクアライン、そしてリニアか!?

超音速機コンコルドは、早い反面、普通の旅客機と比較すると、燃費7倍、定員4分の1、料金4倍で利用者が少なく赤字経営、最後は墜落事故で消滅してしまいました。東京湾横断道路（アクアライン）は、通行料片道4,000円で高額にした結果、通行量は見込みの3分の1以下で大赤字になり、値下げを試みるもさらに財政悪化で、現在は自治体（税金）が補填しています。このような失敗を前提に検討すれば、リニアも同様です。建設費に見合った料金体系にすると乗客はまばら、リーズナブルな料金体系にすれば建設費のものが取れない、ということになりませんか？

経営陣の試算は、大甘と言わざるを得ません。着工にこぎつけるための誤魔化しとしか考えられません。建設費、需要、料金体系が見込みと大幅に異なったら一体この会社はどうなるのでしょうか？だれが責任を取るのでしょうか？